

さんぽみち



発行 わがまち大田鶉の木地区推進委員会

連絡先
鶉の木特別出張所
3750-4241

自然と出会う子供たち！

こどものころ、草花を摘んだり、昆虫を捕まえたりした経験のある方は多いでしょう。しかし、今、都市化の進む中で都会の子どもたちが、自然と身近に触れ合う機会が少なくなっています。そういう中で、学校の子どもたちがどうやって自然とかわかっているか調べてみました。

東調布第三小学校

東調布第三小学校ではうさぎや鳥等の生き物を飼育しています。夏休み中は子どもたちが当番を決め、順番に毎日世話をしに来ていました。こどもたちは、鳥の雛や目の見えないうさぎなどの世話を通して、命の尊さを学んでいます。



綿の花



トマト



整列する小鳥たち



えさ うさぎ にわとり

千鳥小学校

六月三日(土)に学校のプールでヤゴの救出をしました。プールの中ではヤゴはトンボになれないからです。理科室にあったケースにプールからとったドロを入れ、その中からヤゴを見つけて、水を入れたいちごパックに入れました。ヤゴのほかに、赤虫などいろんな虫がいてびっくりしました。

最初は気持ち悪くてさわれなかつたけど、少し勇気を出してさわってみました。そしたら思ったほど気持ち悪くなかつたので、どんどんさわれるようになりました。

どのグループでも元気なヤゴがたくさんとれ、全部で百二十八ひきも救出しました。その後、家や学校で助けたヤゴを育て、トンボの羽化も初めて見ました。来年もまたやりたいです。

千鳥小四年 竹内 綾香

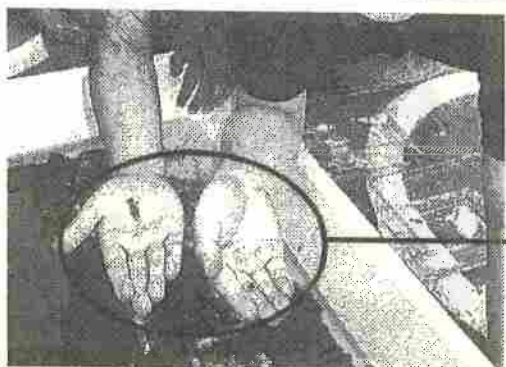


説明を受ける子供たち



嶺町小学校

嶺町小学校では、自然に親しんでもらうため、実のなる植物の栽培をこどもたちが行っています。校庭の花壇には、とうもろこし、なす、きゅうり、さつまいも、トマト等の野菜がところせましと植えられています。普段お店で見ない野菜が、どうやって成長していくのかを身をもって体験でき、自分たちが育てた作物を食すことで、自然を身近に感じ自然のありがたさも感じられます。



ヤゴ



